



通信

HP 学校だより
R7. 2. 13
NO. 40
文責 伊藤美佳



笑う門には 福来たる

7日（金）、10日（月）の昼休みの時間に、6年生のプロジェクト活動の一つ「トヨサカ大爆笑グランプリ」が行われました。今年度1回目は、4年生以上の高学年のみがエントリーしました。今回は、全学年から募集し、多くのお笑いグループが誕生しました。

低学年の子たちには6年生が「ネタ作り」から「練習」まで一緒に考えたり、アドバイスしたりして寄り添ってくれました。そのおかげもあって、舞台上では出場したどのチームも、大きな声ではっきりと伝え、堂々と演じることができました。出場した2年生の子に、「ネタがとてもよかったね」と声をかけたところ、「休憩の時間もネタを考えていたよ」と教えてくれました。2年生でも、高学年の子たちに教えてもらうのではなく、自分たちでネタ（オチのある会話文）を考えていたことがとても頼もしく、これからの楽しみです。

中学年、高学年の参加者にも、6年生はかかわってくれました。参加者が観客を大爆笑させている様子を見て、自分のことのように喜んでくれていることでしょう。

このように、自分たちで出たいと決め（自己選択）、そのために自分たちで準備し、練習し、本番を迎え、見てくれた人から賞賛の拍手をもらうことで、参加した子どもたちの自己肯定感が高まったと思います。また、満足そうな顔で舞台を降りる参加者を見て、企画・運営をした6年生も達成感を得たことでしょう。企画する側も参加する側も、そして漫才を楽しみに見た観客も満足できた、そんな会となりました。これを見て、「次は、自分も出たい」と思ったり、「来年は自分たちが企画しよう」と考えたりしてくれることを期待します。「あこがれ」の姿を見ることのできた素敵なイベントでした。

そして、子どもたちの「やりたい」を応援してくれる先生方、保護者の皆様に感謝を伝えるとともに、これからもご理解とご協力をよろしくお願いします。



6年生との会食

コロナ禍が過ぎてからのこの時期は、卒業を前にした6年生との会食を行っています。5～6人ぐらいを1班として、給食を持って校長室で一緒に食べます。その際、いろいろな話をするのですが、今年度は話しやすいようにサイコロトークを企画してくれました。サイコロを振って出た目の内容でそれぞれが話します。「中学校でがんばりたいこと」「修学旅行の思い出」など、一人一人聞いていくと、あっという間に給食の時間は終わってしまいます。「へえ、そんなことがあったんだ」とか「確かに、おもしろかったよね」といった言葉がでてしまうようなとても楽しい時間です。

卒業後、幸田中と南部中に別れてしまうのが豊坂小学校です。一緒に食べた仲間も違う中学校へ行くんだなと少し寂しい気がしている子もいることでしょう。